

# 平成28年度医学部看護学科入学者選抜

(3年次編入学)

試 験 問 題

総 合 問 題

## 注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は4枚です。指示があってから確認してください。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 問題紙は持ち帰って下さい。

1

自律神経系に関する次の文章の（ア）～（コ）に最も適当な語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

自律神経系は、意思とは無関係に反射や情動によって臓器（効果器）を調節している神経系の事である。臓器を調節している自律神経系には（ア）と（イ）があり、それらは通常は臓器（効果器）に対してお互い（ウ）している。（ア）は、身体活動が盛んになったときに、諸臓器（効果器）をその状態に適応させるように働き、（エ）状態のときに活発になる。（ア）が興奮すると、心拍数を（オ）させ、気管支を（カ）させる。

一方、（イ）は、身体がリラックス状態のときに働く神経である。そのため、（イ）が興奮すると瞳孔を（キ）させ、消化管の運動や消化液の分泌を（ク）させる。なお（ア）は全身に広く分布しているが、（イ）は（ケ）と（コ）には分布していない。

2

肺癌に関する次の文章の（ア）～（コ）に最も適当な語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

肺に発生する悪性腫瘍を（ア）性肺癌といい、他の臓器で発生した悪性腫瘍が肺へ移動して腫瘍を形成するがんを（イ）性肺癌と呼ぶ。（ア）性肺癌は組織型によって4つに分類される。（ウ）がんは、肺門近くの気管と気管支に腫瘍を認め、喫煙との間に強い相関関係を認めるタイプである。（エ）がんは、（ア）性肺癌の5割程度を占め、末梢肺野に発生し、（ウ）がんと比較して喫煙との相関関係が弱いタイプである。（オ）がんは、未分化がん分類され、4つのタイプでは最も頻度の低いタイプである。（カ）がんは、（オ）がんと同様に、未分化がん分類され、（ウ）がんと同様に喫煙との間に強い相関関係を認める。

臨床的には、（カ）がんは、他のがんと異なり、治療法として（キ）が第一選択になることが少なく、主に（ク）療法と（ケ）療法が選択される。また、（カ）がんはホルモン様物質を産生し、クッシング症候群のようなホルモン分泌過剰症の症状を呈することがあり、このような症状は（コ）症状と呼ばれている。

3

糖尿病の慢性合併症を3つあげ、その特徴を簡潔に説明しなさい。

4

次の文章の（ア）～（シ）に最も適当な語句を入れなさい。

- （１）看護の考え方は時代の要請と共に変化している。1923年にはアメリカ合衆国で（ア）レポート『アメリカにおける看護および（イ）』が発表され、看護が入院患者の身体的ケアのみならず、健康な人も対象に含む方向に変化するきっかけとなった。また、1948年には、戦傷者が多く、看護師不足が顕在化していた社会情勢のなかで（ウ）レポート『（エ）』が発表され、この報告で看護への期待がつづられ、看護の（オ）に拍車がかけられた。
- （２）シスター・カリスト・ロイは、人間を（カ）と相互作用しあう全体的な適応（キ）にとらえ、看護は刺激を（ク）して、個人や集団の適応を促進すると述べた。刺激には、（ケ）刺激、（コ）刺激、残存刺激があり、刺激が入力されると、人間の対処プロセスのなかで、４つの適応様式、すなわち、生理的-物理的様式、自己概念-アイデンティティ様式、（サ）様式、（シ）様式のいずれかの反応・行動があらわれる。

5

点滴静脈内注射に関する（１）及び（２）の問いに答えなさい。

- （１）１分間あたりの滴下数を計算するための計算式を記入しなさい。
- （２）80mlの薬液を１時間で投与する指示が出された。20滴で1mlの点滴セットを使用した場合の１分間あたりの滴下数を、（１）の計算式を用いて計算しなさい。ただし、滴下数は小数点以下を四捨五入し、整数で記入しなさい。

6

医療におけるアクシデントとインシデントの定義について説明し、看護場面の具体例をそれぞれ一つあげなさい。

- 7 災害発生時の対応に関する次の文章の(ア)～(ス)に最も適当な語句または数字を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

災害発生時など多数の傷病者が同時に発生した場合、傷病者の(ア)度や重症度に応じて、適切な治療・処置や、(イ)を行うために傷病者の治療の(ウ)を決定することを(エ)という。そのためのSTART法では、呼吸、(オ)、(カ)所見の順で評価をする。(エ)した結果は一目でわかるように、タグを発行し色分けする。タグの色分けでは、0の黒色は(キ)、Iの(ク)色は重症、IIの(ケ)色は中等症、IIIの(コ)色は軽症の傷病者となっている。

日本災害派遣医療チームは日本(サ)と呼ばれている。日本(サ)は、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場でおおむね(シ)時間以内に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームである。その主な活動内容は、被災地内において、傷病者が多数搬送されてくると予想される(ス)病院の支援である。

- 8 次の文章を読んで、(1)及び(2)の問いに答えなさい。

58歳のAさんは会社員で一人暮らしである。健康診断で高血圧、肥満、脂質異常症を指摘されていたが、受診はしなかった。タバコは1日10本程度を喫煙し、アルコールは500ml入りの缶ビールを2本毎日飲み、食事はほとんど外食やコンビニ弁当であった。会社の新年会の席で「左胸あたりを中心に激しい痛み」があり、その場で身動きが取れなくなった。同僚が救急車を呼び、病院に搬送された。心臓カテーテル検査の結果、左前下行枝の起始部が99%閉塞していたため、経皮的冠動脈形成術が行われた。病状が安定したため、利尿薬と抗凝固薬を服用し、退院が決定した。

- (1) 経皮的冠動脈形成術直後のAさんに必要とされる看護を4つ、根拠に基づいて説明しなさい。
- (2) Aさんの退院後の生活の視点をふまえた再梗塞予防の退院支援を4つあげなさい。

9

認知症に関する次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の文章の(ア)～(ケ)に最も適当な語句を入れなさい。

認知症の原因疾患には、アルツハイマー型認知症の他に、(ア)認知症、(イ)認知症、(ウ)認知症がある。手術や欠乏物質の補充などの治療により症状が軽減する場合もある。治癒が期待できる代表的な疾患として(エ)や(オ)がある。

認知症の症状には、記憶障害や(カ)、(キ)等の中核症状と、脳疾患や認知機能の低下により派生する様々な行動障害の総称である(ク)症状の2つの症状群から構成されている。

薬物療法は、根本的な治療を導くものではないが、早い時期から使用することで進行を年単位で遅らせることができる。現在、日本で承認されている抗認知症薬は(ケ)等の4つである。

(2) 認知機能検査で用いられているスケールの名称を2つあげなさい。

(3) 非薬物療法を2つあげ、その内容について簡潔に説明しなさい。

10

在宅看護に関する次の文章の(ア)～(ケ)に最も適当な語句または数字を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

(1) 訪問看護制度は、(ア)制度と(イ)制度において位置づけられている。(ア)が他法に優先するため、(ア)で訪問看護を利用できる者は(イ)では利用できない。ただし、(ア)で利用している者であっても(ウ)等による特別訪問看護指示による訪問看護の期間、厚生労働大臣が定める疾病等である(エ)や(オ)などに対する訪問看護・精神訪問看護は、(イ)で対応する。

(2) 戦後ベビーブーム世代が(カ)歳以上になる2025年を視野に、要介護高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようにするために医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスなどを常時提供する(キ)の構築が進められている。(キ)は、おおむね(ク)分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏、具体的には(ケ)校区を単位として想定されている。